

ニボルマブ療法(4週毎)
(オプジー)
(オプジー)

患者番号: 氏名: 性別: 年齢:

がん種 (適応)	腎細胞癌			
開始年月日	年 月 日			
1 コース期間	28 日間			
体格	身長 cm	体重 kg	体表面積 m ²	
嘔気・嘔吐リスク	最小度	制吐剤	なし	
特記事項				

投与薬剤	投与量	投与時間	投与スケジュール
オプジー	480mg (480mg/body)	30分	Day1

【処方が必要な内服薬】

HBs 抗原(+) → **消化器内科紹介**
HBs 抗原(−) → HBs 抗体(−)and HBc 抗体(−)
HBs 抗体(+)and/or HBc 抗体(+) → HBV-DNA 定量(−) → 3ヶ月毎 定量
HBV-DNA 定量(+) → **消化器内科紹介**

指示医師サイン

光晴会病院化学療法委員会

2024年12月16日改訂

免疫チェックポイント阻害薬 副作用対応連携シート						
副作用	主な自覚症状	検査項目	ベースライン (投与開始時)	モニタリングの目安	専門医へのコンサルトのタイミング	
間質性肺炎	発熱、空咳、息苦しい、息切れ	胸部X線 腹部CT KL-6 SP-D	○ ○ ○	投与時 疑い時 2か月毎に2回	左記の自覚症状発現の場合、左記検査項目の異常が認められた場合には、直ちにご相談ください。	
内分泌障害	甲状腺機能低下症：身体がだるい、体重増加、徐脈、便秘、食欲低下など 甲状腺機能亢進症：汗をかきやすい、体重が減る、甲状腺のはれ、胸がドキドキする、手の震え、不眠、発熱、下痢、振顛、食欲低下 副腎機能不全：身体がだるい、意識がぼやけれる、考ふがまどまらない、嘔吐、むかむかする、食欲不振、低血圧、脱力感 副甲状腺機能低下症：手足の筋肉の痙攣、手足口の周りなどのしびれ	TSH・FT3・FT4 抗サイロクロブリン抗体 抗TPO抗体 TSHレセプター抗体 iPTH ACTH コルチゾール	○ ○ ○ ○ ○	月1回 月1回 月1回 月1回 月1回	[甲状腺] 症状出現（倦怠感や動悸など）、TSH・FT3・FT4に異常が認められた際、TSHレセプター抗体、抗サイロクロブリン抗体、抗TPO抗体を1回測定し、自己抗体陽性で症状発現時はコンサルト [副腎] ACTH・コルチゾールを測定した際、コルチゾール低値の場合にコンサルト	
大腸炎 重度の下痢	下痢（軟便）もしくは通常よりも頻回の便通、血便もしくは黒くタル便で粘着質の便、重度の腹部痛もしくは肛門	排便回数 腹部CT 大腸内視鏡検査 CPK	○ -	投与時 疑い時 投与時	Grade2以上の下痢・便回数の増加が認められた場合 (ベースラインと比べ4~6回/日以上の排便回数増加) 腹痛・下血・便失禁、発熱特に注意	
重症筋筋无力症 筋炎	重症筋筋无力症：上まぶたが下がる、物が遠ざいて見える、飲み込みにくい、しゃべりにくく、呼吸困難 筋炎：身体に力が入らない、発熱、飲み込みにくい、息苦しい、発疹、筋肉の痛み	AChR抗体	-	疑い時	目が下がってくる（眼瞼下垂） 飲み込みにくい（嚥下障害） 症状発現時あるいは、CPK1000IU/L以上の場合にコンサルト	
1型糖尿病	糖尿病：身体がだるい、体重減少、どの混き、水を多く飲む、尿の量が増える 糖尿病性ケトアシドーシス：意識の低下、恶心、嘔吐、腹痛	HbA1c グリコアルブミン 血糖 検尿（尿ケト・尿） Cペプチド	○ ○ ○ ○	月1回 疑い時 投与時 疑い時	血糖値が、急激に上昇した場合にコンサルト	
皮膚障害	湿疹、かゆみ	○	○	投与時	Grade2以上の皮膚障害	
肝障害	倦怠感、黄疸、嘔吐・嘔気、食欲不振、そう痒感	AST ALT γ-GTP ALP T-Bil D-Bil LDH HBs抗体・HBe抗体 HCV抗体	○ ○ ○	投与時 投与時 月毎にDNA量を測定	左記の自覚症状の発現、又はGrade2以上の肝機能障害が認められた場合にコンサルト	
心血管障害	心不全、心筋炎、心房細動、深部静脈血栓	PT APTT フィブリノゲン 心筋トロポニン NT-proBNP D-ダマー FDP 心エコー 心電図	○ ○ ○ ○	疑い時	左記の自覚症状の発現、又は検査値の異常時(コンサルト)	
眼障害	充血、霧視、羞明、眼痛	○	○	投与時	左記の自覚症状が発現した場合にコンサルト	
その他		Na K Cl Ca P TP ALB UA AMY BUN Cr 血液算定 (CBC) バイタルサイン	○ ○ ○ ○	投与時		

※検査オーダーは検査セット、統合セットを作成していますので、そちらより使用してください

死亡例が報告されています。早めに専門医へのコンサルトをお願いします